

クライオ電子顕微鏡最前線

Frontier of Cryo-Electron Microscopy

めざましい進歩を遂げているクライオ電子顕微鏡法は生体分子の立体構造解析の新しい手法として重要な技術となってきました。クライオ電子顕微鏡法の最新技術や最新の構造解析の成果をご紹介します。また、クライオ電子顕微鏡法に関連する一般講演も募集しています。ご参加をお待ちしています。

■日時 2018年9月20日(木) 13:30～17:30(予定)

■場所 名古屋国際会議場

■招待講演 (敬称略、五十音順)

青山一弘 (大阪大学)

「Structure analysis of living Cell by using Cryo-STEM Tomography」

大嶋篤典 (名古屋大学)

「クライオ電子顕微鏡を用いた細胞間結合チャネルの構造研究」

加藤貴之 (大阪大学)

「最新クライオ電子顕微鏡による構造解析」

成田哲博 (名古屋大学)

「クライオ電子顕微鏡法によって明らかになったコフィリンによるアクチン線維切断機構」

横山 謙 (京都産業大学)

「クライオ電子顕微鏡で明らかになったATP合成酵素の形と動き」

一般講演を募集しています

世話人：西竜治(大阪大学)、谷口淳(東京理科大学)、
光岡薫(大阪大学)、白井博明(東京農工大学)

問い合わせ先: rnishi@uhvem.osaka-u.ac.jp